

OLIS-東京理科大学保険フォーラム

生命保険会社におけるアクチュアリーの活躍分野

長友宏樹
(朝日生命保険相互会社)
2016年10月16日

目次

1. 自己紹介
2. アクチュアリーとは(資格試験の概要)
3. 生命保険会社におけるアクチュアリーの活躍分野
4. 私のこれまでの業務体験談
5. 今後の業務

1. 自己紹介

■略歴

2010年3月 東京理科大学理学研究科数学専攻修士課程修了

2010年4月 朝日生命保険相互会社入社

半年間の研修を経て・・・

2010年10月 経営企画統括部門 保険計理ユニット

2014年4月 主計部 保険計理室

2016年4月 商品開発部

現在に至る

1. 自己紹介

■略歴

保険計理ユニット・保険計理室

⇒事業統計・再保険・主計システム・団保決算・ソルベンシーマージン・将来収支分析

商品開発部

⇒商品数理(新商品の料率作成・収益シミュレーション・当局折衝)

2. アクチュアリーとは(資格試験の概要)

■アクチュアリーとは

アクチュアリーとは、一言で表現すると、「**確率・統計などの手法を用いて不確実な事象を扱う数理のプロフェッショナル**」です。確率論・統計学などの数理的手法を活用して、主に保険や年金に関わる諸問題を解決し、財政の健全性の確保と制度の公正な運営に務めることを主な業務とする専門職です。国際的な専門職として広く海外でも知られ、各国の企業からも高く評価されています。

(日本アクチュアリー会HP アクチュアリーなんでもQ&Aより)

- ー日本では、日本アクチュアリー会の正会員を指すことが多い
- ー活躍している業界は保険会社、信託銀行、官公庁、コンサルティング会社、監査法人など

2. アクチュアリーとは(資格試験の概要)

■ アクチュアリー資格試験について

- 日本アクチュアリー会が年1回、12月に実施している、アクチュアリーに必要な専門知識や問題解決能力があるかどうかを判定するための試験
- 第1次試験(基礎科目、5科目)と第2次試験(専門科目、2科目)がある。
- 基礎科目の1科目以上に合格すると「研究会員」、基礎科目の5科目すべてに合格すると「準会員」、基礎科目5科目と専門科目2科目すべてに合格し、所定の研修を受講すると「正会員」に認定される。

2. アクチュアリーとは(資格試験の概要)

■ 第1次試験(基礎科目)

— 第2次試験を受けるに相当な基礎的知識を有するか否かを判定。全部で5科目。

科目	内容	出題範囲
数学	確率・統計・モデリング	確率分布、統計的検定、回帰分析など
生保数理	生保数理の基礎および応用	生命表・生命関数、営業保険料、責任準備金など
損保数理	損保数理の基礎および応用	信頼性理論、危険理論の基礎、リスク評価の数理など
年金数理	年金数理・年金財政の基本	定常人口論、財政方式、保険料と責任準備金など
会計・経済・投資理論	会計・経済・投資理論の基本	財務会計、ミクロ・マクロ経済学、ポートフォリオ理論など

2. アクチュアリーとは(資格試験の概要)

■第2次試験(専門科目)

ーアクチュアリーとしての実務を行う上で必要な専門知識および問題解決能力を有するか否か判定。「生保コース」「損保コース」「年金コース」のいずれかを選択して受験(それぞれ2科目。下表は生保コースの場合)。また、出題範囲に関わる時事問題も出題対象。

科目	内容	出題内容
生保1	生保商品の実務	営業保険料、解約および解約返戻金、アセットシェアなど
生保2	生保会計・決算	生命保険会計、契約者配当、事業費の管理・分析など

※正確な情報は日本アクチュアリー会HPから資格試験要領をご確認ください

2. アクチュアリーとは(資格試験の概要)

■合格に向けてどう勉強するか?(自分の体験談)

- 少なくとも2科目は並行して勉強する(試験直前になってきたら1科目に集中することも考える)
- 対策講座を受講する(有料)
- 先輩に話を聞く(使えるものがあったら提供してもらう)

3. 生保会社におけるアクチュアリーの活躍分野

■商品開発

死亡率・発生率等の作成、保険料率の算定、金融庁折衝、収益シミュレーションなど

■決算・収益管理

準備金(責任準備金等)計算、利源分析、**ソルベンシーマージン**、**将来収支分析**など

■リスク管理

商品別損益分析、リスク検証、ERM推進など

■その他

経営企画、資産運用、営業企画、**システム**など

4. 業務体験談

事業統計

- 毎月の会社業績を、件数・保険金額・保険料ベースなどで集計し、前年比などを算出
- 新商品の販売動向、商品ポートの確認、解約失効の動向を調べて、原因調査や対策を検討する
- 入社当初に経験したこともあり、自社の保有している保険契約の特徴やボリューム感の感覚を身に着けることができた

4. 業務体験談

システム

- 保険料率や解約返戻金率の計算、決算業務に必要なデータ算出はシステム部門で行う
- 上記の業務をシステム部門に依頼するにあたり、要件定義書の作成や、作成された料率の検証(デバッグ)を行う
- お客様からいただく保険料や決算諸数値を正確に算出するために、重要性は極めて高い

4. 業務体験談

ソルベンシー・マージン基準

- ソルベンシー・マージン比率は、保険業法に基づき監督当局が保険会社の経営の健全性を判断するために用いる指標で、具体的には、**通常の予測を超えて発生する様々なリスクに対する支払余力(マージン)の比率**により、保険会社の財務の健全性の状況を示す指標
- 余談だが、現時点で予測される合理的なリスクを担保するのが、**責任準備金**である

4. 生保会社におけるアクチュアリーの活躍分野

$$\text{ソルベンシー・マージン比率(\%)} = \frac{\text{ソルベンシー・マージン総額}}{\text{通常の子測を超えるリスク} \times \frac{1}{2}} \times 100$$

■ソルベンシー・マージン総額

ーその他有価証券の含み損益等を含む広義の自己資本

■通常の子測を超えるリスク

ー保険リスク、予定利率リスク、資産運用リスクなど

4. 業務体験談

ソルベンシー・マージン基準

- ソルベンシー・マージン比率の算出をはじめ、当該比率を改善するための方策や、株価・金利に対する比率の感応度を分析する
- この業務について深く理解するためには、財務諸表（損益計算書・貸借対照表など）に関する理解が必要

4. 業務体験談

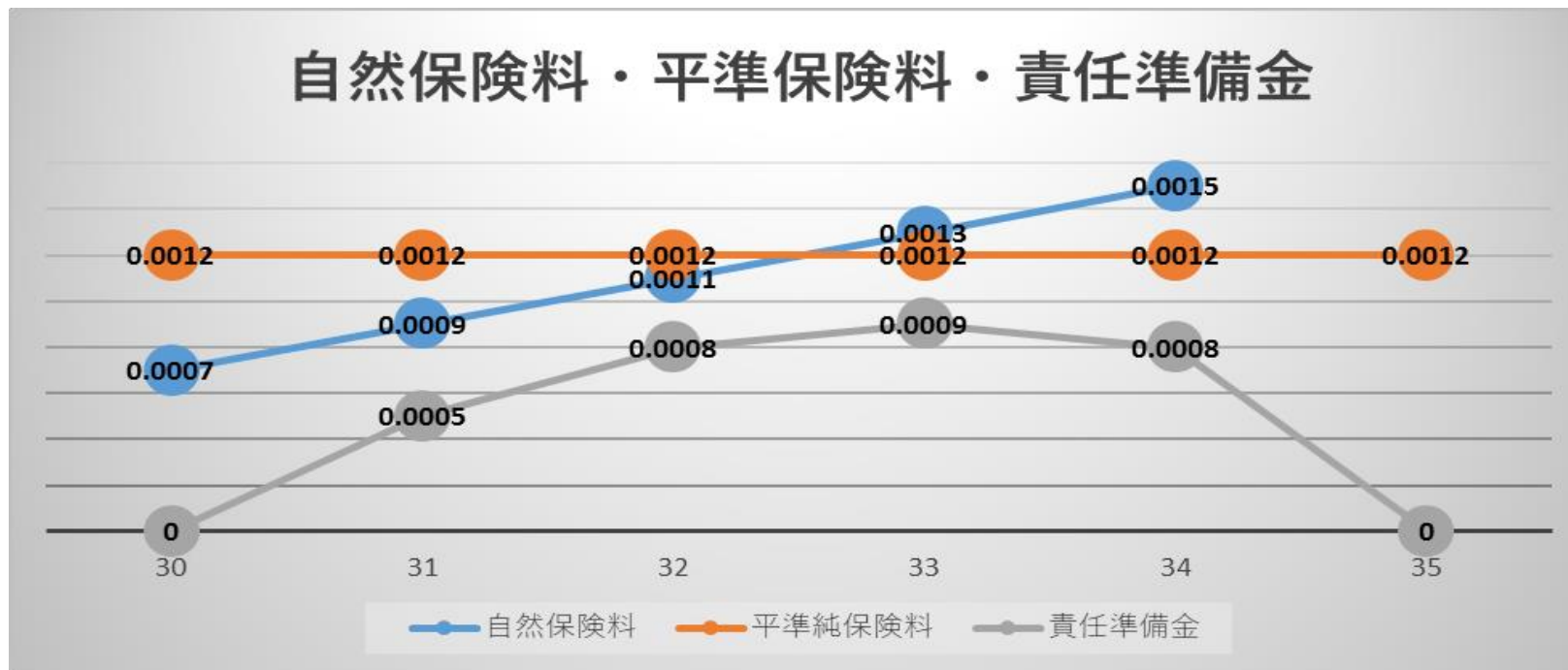
将来収支分析

- 将来の資産の状況などを考慮して責任準備金の積立水準が十分であることを確認する
- 分析を行う期間は、10年や全期間(すべての保険契約が消滅するまでの期間)などの考え方がある
- 当該分析を行うためには合理的なシナリオ(将来の金利・解約率や死亡率などのパラメーター)を設定する必要がある

4. 業務体験談

■ 責任準備金とは？

— 保険金の支払い等の保険契約上の責任を全うするために準備する金額



5. 今後の業務

■商品開発

ー3つの視点。

①お客様 ②営業職員 ③会社

いずれもバランスよく考慮する必要がある。

ー上記のことを常に念頭に置いて、プライシング業務に携わっていきたい。

ご清聴ありがとうございました。
